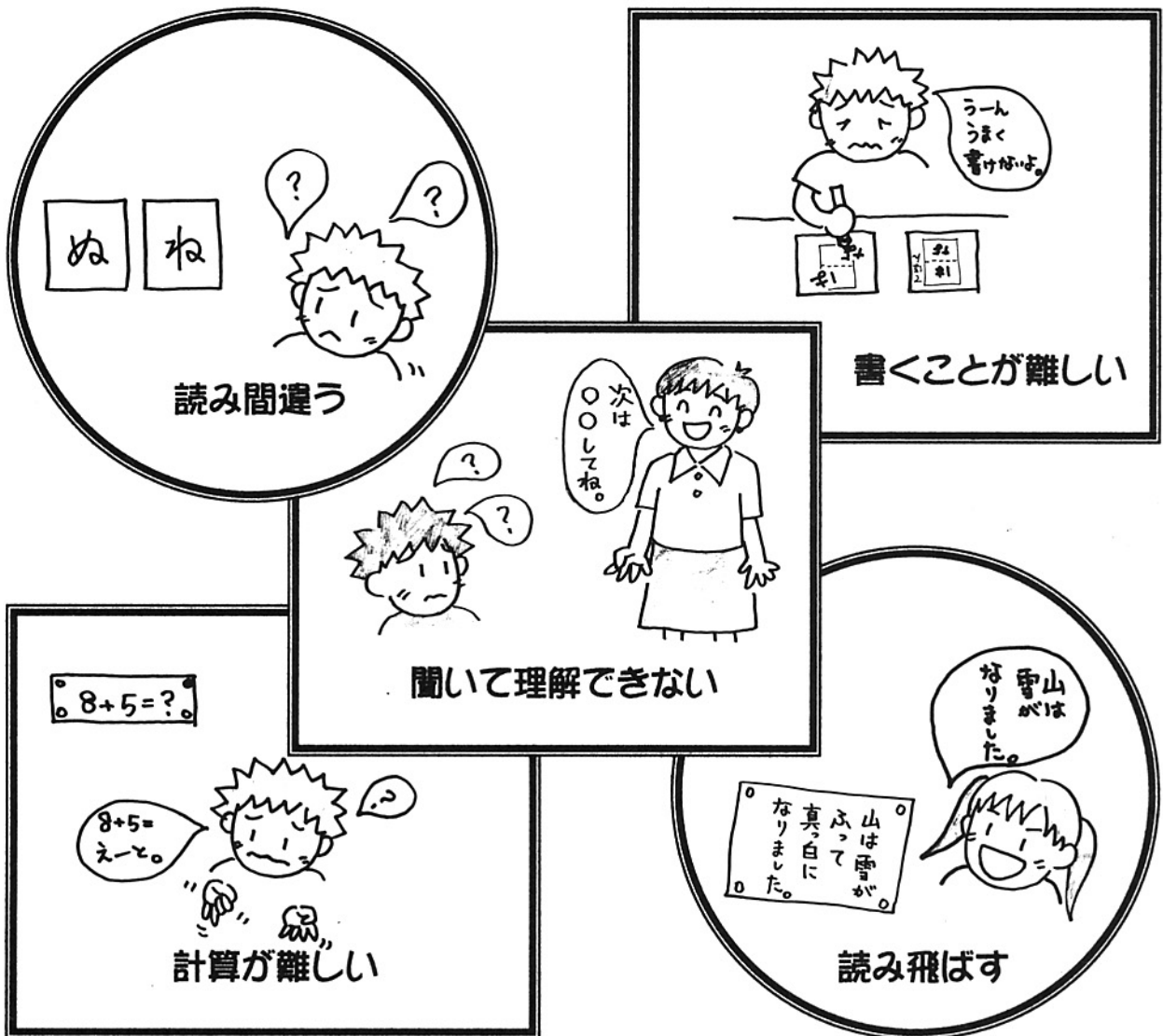


学習につまずいている 子どもたち



あなたのクラスには

ルールが分からない



なかなか覚えられない



縄跳びや跳び箱が
極端にできない



ヒストル音が怖い
(過敏)



整理整頓ができない



絵が描けない



このような子どもはいませんか



次のような理由が考えられます

①知的発達の違いがある場合

→記憶力や思考力が弱いため、全ての教科でつまずきやすいのです。

②学習能力につまずきがある場合

→いわゆる学習障害（LD）と言われる子どもたちです。聞く、読む、話す、推論するなどの特定の能力の習得と使用に困難があり、様々な領域の学習に影響します。

③性格や生活リズムに偏りがある場合

→わがままなど欲求不満に対する耐性がなかったり、自信欠如のためやる気が無くなっていたりします。また、学習習慣の欠如など、学習態度が形成されていないことが多いのです。

④人間関係につまずいている場合

→学級や学校、家庭での人間関係につまずいています。そのため、情緒が安定せず、学習に意欲がわかないことが多いのです。

子どもの学習能力と教師の指導方法との間には密接な関係があります。先生方の工夫で、子どもの学習上のつまずきは軽減されることも多いのです。

かかわり方のポイント

1. 学習につまずいている子どもの気持ちを理解しましょう。

- ①自分のできない部分を気にしています。努力しても、努力だけでは解決しないこともあります。それでも、「みんなと同じことをしたい」「できるようにになりたい」という気持ちを十分もっています。
- ②自信のなさから、興奮したり、乱暴したりする不適応行動をとることがあります。できない自分自身にいらだち、衝動的な行動をとって、周囲との関係を悪くしてしまいがちです。「みんなからほめられたい」「認められたい」という気持ちを必ずもっています。
- ③失敗を繰り返すと、無気力になってしまいます。学習が分からないことで、学校生活に不安と緊張を感じています。友達のからかい、親や教師の無理解な態度は、子どもの意欲低下や自己像の低下につながります。



2. 学習につまずいている子どもの親の気持ちを理解しましょう。

- ①親も子どものできない部分をとても気にしています。「できるようにしてほしい」「できるようにしてあげたい」という思いでいっぱいです。しかし、できないことばかりが目につき、子どもを認める余裕がありません。
- ②親も子どもにどう対応したらよいのか迷っています。「何とかしなくては」と思っていますが、どうしたらよいのか分からないのです。先生も親の立場に立って考えてみるのが大切です。
- ③親も子どものことを相談したいと思っています。「先生に話がしたい」「相談がしたい」と思っても、非難されるのではないかと心配しています。先生の方から、親の思いをしっかりと聞いてあげましょう。



3. 子どもの意欲をなくさないために指導の工夫をしましょう。

- ①「どこができないのか」「どのようにできないのか」「できることは何か」という視点で、できるだけ具体的に子どもの状態を記述しましょう。
- ②記録から子どもの課題やその子自身の得意としていること、興味・関心がどこにあるかを整理しましょう。
- ③一人一人にふさわしい指導法（教材や手順）を考えましょう。また、できないまま終わらせず、「できた」「やれた」という達成感をもたせて、飽きる前に終了しましょう。

